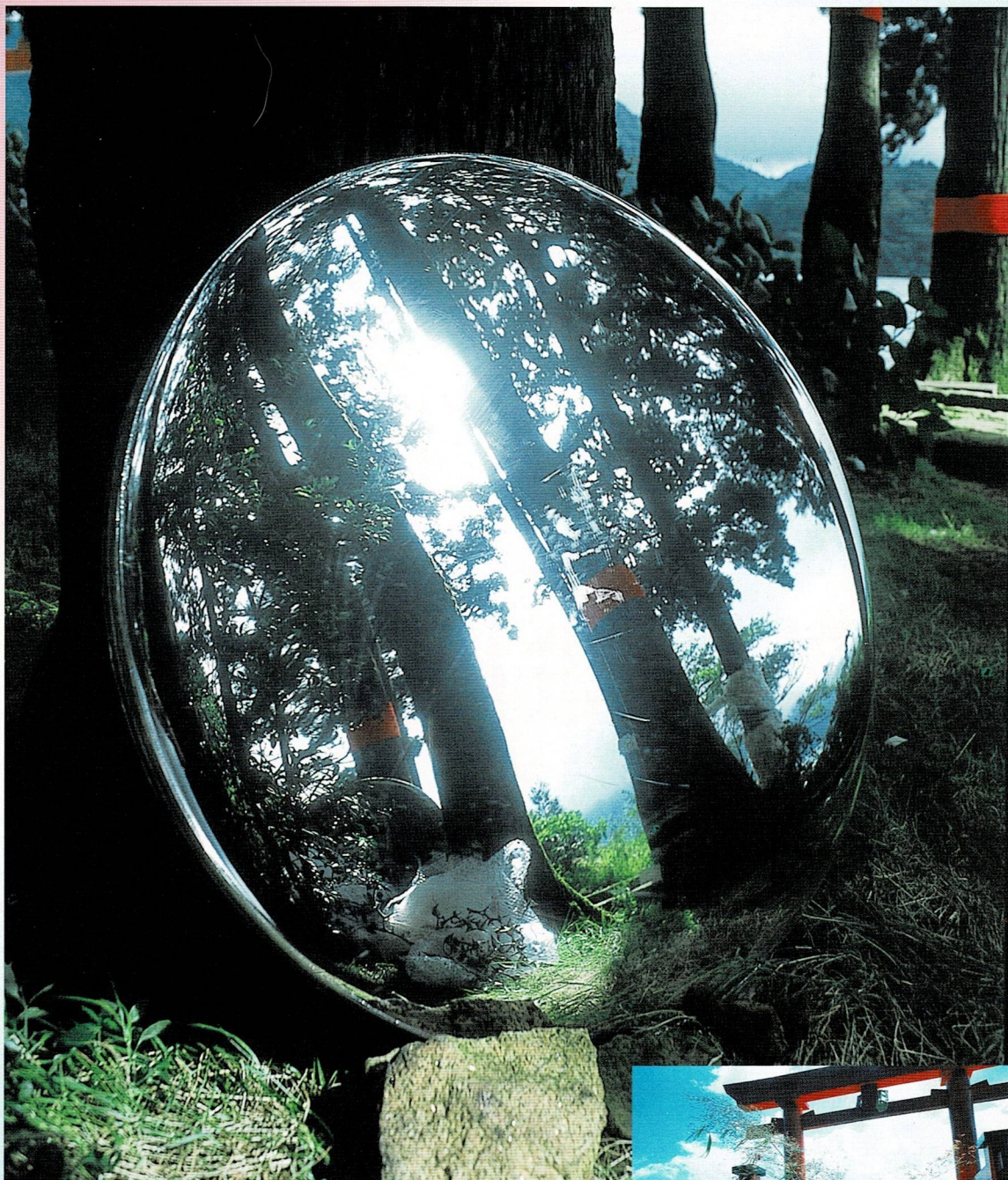


NPO



No.14

works Note



飯尾しづ子 「水と光とたわむれる」



箱根神社野外現代いけばな展

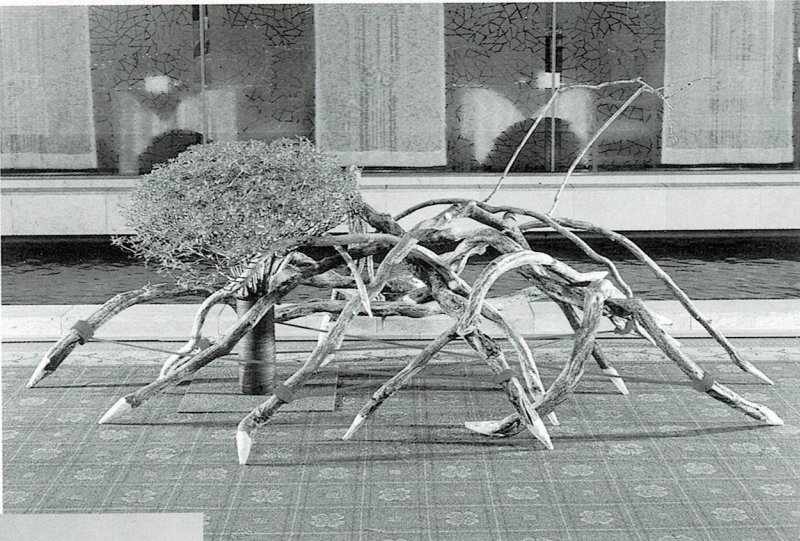
日時 八月二十日土
二十一日日
会場 箱根神社/湖内
主催 NPO いけばなworks
後援 箱根神社
花やま新聞社
日本文化新聞社

いけばなミュージアム

Vol ④

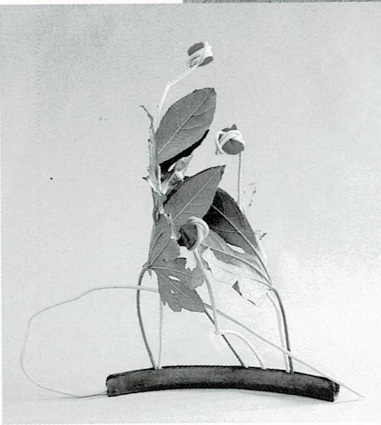
和田俊雪 WADA SYUNSETSU

花材：満天星躑躅・藤・赤口トブ



物体を作り、語り合い、そして息づく作品に育てあげたい。私自身の理想でもあるけれど、少しずつでも植物に近づき向かい合い、何かを創造して納得のいく作品を作りつつ日本の文化「いけばな」芸術として継承する気持ちを大切にしたいと思う。

花材：脱色藤蔓・八手・赤布



龍生派家元一級教授
NPOいけばなworks正会員



第三回 近江神宮の森 野外現代いけばな展 開催告知

ゴールデンウィークの開催として恒例となりましたいけばなworksの野外現代いけばな展も、平成13年に鎌倉宮(神奈川県鎌倉市)より始まり早6年目を迎えます。

旧貨幣大社勅祭社として日本でも有数な大社である近江神宮(御祭神天智天皇)での本展も、今年で第3回目となり、5月のイベントとして地元の皆様にも定着してきておりますが、今回は神苑の森には現代いけばな作品を展示し、拝殿の回廊には生花作品を展示する形にて開催をいたします。5月の陽気は爽やかですが、風の強い日や雨の日もあり、やや天候が不安定な時季でもあります。その自然と作者とが対話を試みる本展は左記の通り開催されますのでご案内申し上げます。

又、懇親会のみ参加も出来ます。広く交流の場と致したく願っています。

【開催名】

第3回 近江神宮の森 野外現代いけばな展

【会期】

平成18年5月3日(水)～5月5日(金)

※3日公開いけばな

【いけばな】

平成18年5月3日(水) 午前7時～午後3時半

【あげばな】

平成18年5月5日(金) 午後2時～午後5時

【会場】

近江神宮・境内(滋賀県 大津市神宮町)

【主催】

NPO いけばなworks

【開催内容】

出品予定数約50名のいけばな作家による作品を境内各所に野外展示する。

いけばな展開催奉告祭の実施

懇親会の開催

平成18年5月3日(水) 午後4時

平成18年5月3日(水) 午後5時～8時

【入場料】

無料



社団法人
華道未生流 総家

家元 和田高甫

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2-5-15
Tel (06)-6231-1881 Fax (06)-6231-4127
<URL> <http://www.ikebana.co.jp>
<E-mail> info@ikebana.co.jp



きもの着付け

着付け教室/技術者派遣

— 個性美学理論にもとづく和装魅力術 —
NPO法人 尚美流 全日本和装協会
教室案内 www.shobiryu.jp Tel : 0120-81-0550

『木花之佐久夜毘売』

わが国最古の書『古事記』の上巻には天孫降臨（天孫Ⅱ高天原「神々の世界」の子孫、降臨Ⅱ地上に降りること）の神話が見える。その末尾には降臨なさった天津日高日子番邇邇芸の命（以下、邇邇芸の命と略称）に関わる次の話が展開される。

邇邇芸の命は笠沙の岬で一人の見目麗しい乙女と出会った。大山津見の神（山の神）の娘で木花之佐久夜毘売（桜の花が咲き栄えるように咲き栄える女性）である。そこでその家に行き、歓待を受けなさった邇邇芸の命は「この娘を妃に迎えたい」と乞いなさる。大山津見の神は姉である石長比売と妹である木花之佐久夜毘売を一緒に嫁がせるつもりであった。

（上代は一夫多妻制。）ところが邇邇芸の命は妹だけを妃に迎えたいと仰る。そこで大山津見の神は「わが女を二並べて立て奉りしゆゑは、石長比売を使はさば、



天つ神の御子の命は、雪零り風吹くとも、恒に石のごとく常に堅に動かず坐さ

む。また、木花之佐久夜毘売を使はさば、木の花の栄ゆるがごとく栄え坐さむと、うけひて真進りき。

かく石長比売を返さしめて、木花之佐久夜毘売のみを留めたまひつれば、天つ神の御子の御寿は、木の花のあまひのみ坐さむ（わが娘を二人並べて嫁がせ申そうとした理由は、石長比売は御命が雪が降り風が吹いても、常に岩のように永遠にしつかりと動くことなくいらつしやるであろう。また、木花之佐久夜毘売は木の花の栄えるように栄えなさるだろうと、誓約して嫁がせ申しました。このように石長比売をお返しになり、木花之佐久夜毘売だけをお留めになると、天つ神の御子の御寿命は、木の花のようにはかなくなつておいでになることでしょう」と残念がったという。

右の神話で木花之佐久夜毘売の名にあるハ花Ⅴとはハ桜Ⅴのことである。桜は実りすなわち繁栄を暗示する花なのである。古えの人々は爛漫たる桜花に豊穣を感じた。農耕生活から来る実感が秋の稲穂を思い描かせ、繁栄を予感させたのである。そこで春の花見には秋の収穫への

の期待があったのである（こうした行為を予祝Ⅱ予め成就を祝福して実際の成功を期すること、という）。そこで桜は稲の实りを予感させる花であつたというわけである。

このような理由で木花之佐久夜毘売が嫁ぐと「桜花が盛んであるように天孫・邇邇芸の命が繁栄なさる」ことになるのであつた。『古事記』と並ぶ史書『日本書記』には、天孫降臨に際して神々が稲穂を託し「葦原の千五百秋の瑞穂の国は、是、吾が子孫の王たるべき地なり。爾皇孫、就でまし治せ。行矣。宝祚の隆えまさむこと、当に天壤と窮り無けむ（葦原の瑞穂の国はわが子孫が天皇となるべき地である。皇孫よ、お出でになつてお治めなさい。幸いあれ。皇統が連綿とお続きになるであろうことは、さながら天地が果てることが無いのと同様である。）」
「吾が高天原に所御す斎庭の穂を以て、亦吾が児に御せまつるべし（私が高天原で召し上げる神饌の稲穂を、吾が御子にお託し申し上げるべきである。）」と仰つたと記す。その邇邇芸の命が降臨した国が「豊葦原の瑞穂の国」で、「葦が生い茂る水辺の稲穂が瑞々しく実る国」の意である。
桜が潔く散る花だとされたのは近現代のことで、本来は実りの豊かさや、事柄の成就・幸いを意味する花だったのである。

（かねこ よしみつ）
國學院大學神道文化学部講師 國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程修了
儀礼文化学会運営委員 神道宗教学会理事 中野島稲荷神社宮司 現代神社と実務研究会常任理事
<http://ujiko.hp.infoseek.co.jp> に「祝詞表現拾遺」連載中



社団法人 華道 瑩心会

東京都渋谷区恵比寿南1-12-1 ☎・FAX03 (3713) 3730
<http://homepage2.nifty.com/eishinkai/>

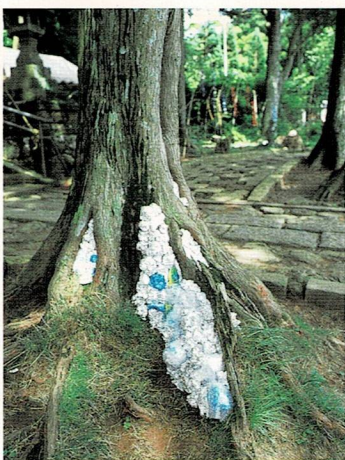


“事業を通して暮らしに潤いを提供し、豊かな社会文化を創造します。”

OTA 株式会社 大田花き


Tel:03(3799)5000 JASDAQ
Fax:03(3799)1871 コード:7555
<http://www.otakaki.co.jp>

桑折理菜葉 「昼寝覚」 ～夢と現の間～



鶉納理幸 「幻遊」




箱根神社
野外現代
いけばな展

後援
 ◎産経新聞社
 700リポート
 花卉園芸新聞社
 日本女性新聞社



福永八千代 こんな見方もできませんか?...

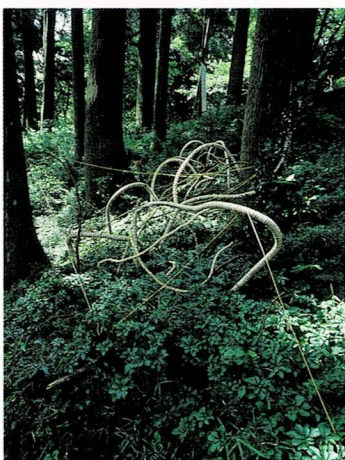


山内灑舟 あたたかな寄生

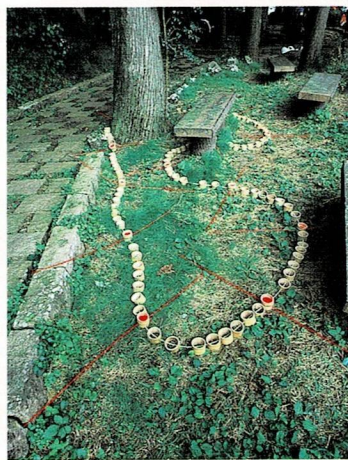
小呂理晴 明るい未来



角 隆雪 転転



大吉昌山
わのわ
いつまでも、どこまでも、を願って



出品者助手の皆様と正式参拝終了後に
鳥居前にて



神社空間での現代野外いけばな展も明治神宮(一回)、鎌倉宮(一回)、近江神宮(二回)に続き、昨年夏には箱根神社(濱田進宮司)の芦ノ湖に面した境内にて、八都府県より集まった二十一名の作家により開催されました。八月二十日(土)二十一日(日)と、夏の盛りで暑いかと思われまうでしょうが、さすが避暑地とあって大変涼しく、また、二日は雨となり肌寒い中での開催になりました。初日は公開いけこみ、そして開催奉告祭としての正式参拝を致しました。トップシーズンの為、会場、宿泊の関係で今回残念ながら懇親会を行うことは出来ませんでした。また、翌日あげばなどという事で、もう一日くらいは展示をしていたい気持ちもありましたが、二十一日はやはりラッシュ渋滞に巻き込まれ、帰宅の道は大変長いものでした。また、本年五月には近江神宮で三回目の野外展が開催されます。是非、流派・立場を超えてのご参加をお待ちしております。箱根神社での作品を、表紙、三、四頁にて紹介いたします。

写真 深見耕一



和田俊雪 命の再生



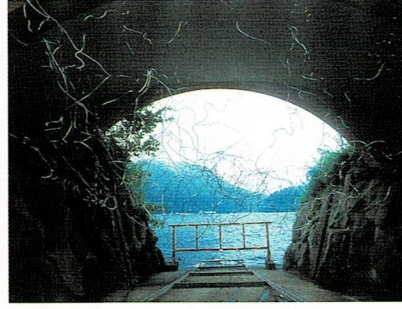
江原京子



杉崎宗雲jr. 九頭龍の巣



小林葉雪 森の風にゆれて



溝口理奈保 You pray to the earth



樫山美雅 希望



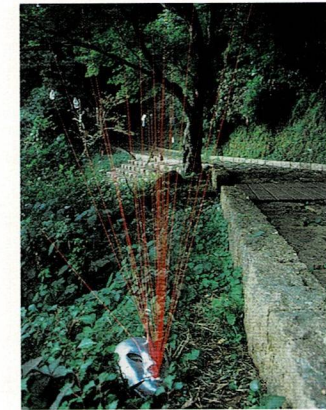
渡邊華靖
気焔あげ山守らむと湖を望み
赤糸絨身にまもらむと



和田高甫 然（しかり）



滝澤洋子 緑のなかでやさしくなる



吉川芳山 エ～？



鈴木理美&その仲間たち
あたらしい風

山本修子
湖からのメッセージ



当日プログラムを
同封致します。
合せてご覧頂きた
く存じます。

林 有為子
「宇宙」のみなさんお元気ですか。
40年前父のプレゼントの大切なカバン
私はこれで宇宙へ行きます。



日本伝統文化茶華道レッスン



茶の湯体験・いけばなも同様ほぼ二時間。休憩を途中にいれませんが、出来るだけ正座をして頂いています。(何と、初めて正座をするという子もいる時代です。)

平成十七年度子どもゆめ基金・子ども体験活動助成を受けて、七月二十九日(金)・三十日(土)・三十一日(日)の三日間、「日本伝統文化茶華道レッスン」が開催されました。全日共事務局のある創美流華道會館を提供して頂き、毎日同プログラムにて十時～十五時までのカリキュラムを組み、午前は茶道の基本、礼の作法、座敷での作法、手水の仕方、扇子の扱い、床の飾りつけ、茶道具の説明などから始まり、お抹茶の頂き方、干菓子、菓子の説明と頂き方など、茶道とは単にお茶を頂くだけでなく、日本人独特のコミュニケーションの場であることを感じて頂き、礼儀や作法を今後の生活に生かしてもらえ生きた道であること、知ってもらふことを期待し実技を行いました。子ども達は各自お弁当と水筒持参で昼食をとり、しばしの休憩のあと午後は華道の実技。午前中に引き続き、豊の部屋で聞くことから、礼に始まり礼に終わる華道の基本と、いけばなの始

りて説明し、単に花をいけるだけでなく、「花をいかにす」ことがいけばなであるとして、「花一葉を無駄にせず、今頃は夏の涼しさを演出する水陸いけの実技を行いました。あわせて、花の道具の説明、花鉢の扱い方などを指導し、植物にふれる楽しさを感じて頂けるように致しました。

前年は一日定員十名で二日間、計二十名の募集をしたところ、三十二名の応募があったことから、今年は参加枠を広げ一日十五名定員で三日間計四十五名の募集としましたが、今回も定員を大幅に超え六十一名の参加のもと開催を致しました。大幅に受け入れを増やしても、あとの希望者はキャンセル待ちで補欠となるなど、大変好評でありました。

また、前回参加の方々にもご案内したところ、年に一回のご案内があります。年一回のご案内に一日だけでも和の空間に触れる場を子どもたちが自発的に持つて頂けたことが喜ばしいことでした。

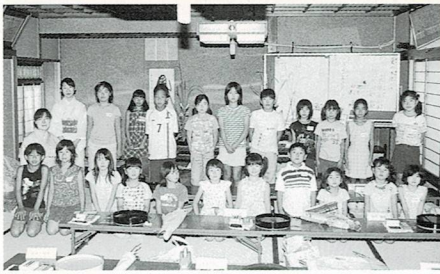
今回の助成額は四十一万三千円、総経費は定員以上に受け付けたこともあり、事業額を上回り五十八万三千八百円をかけた開催でありました。

募集にあたっては、東久留米市、小平市には全面的にご協力を頂き、

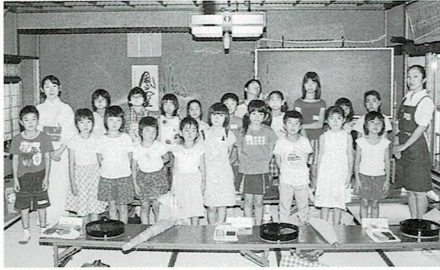
各小中学校、市報等でのご協力を頂きまして、他近隣地区での配布も含め、チラシ配布総数二万五千三百九十枚、ポスター配布二百三十枚、案内状送付三百七通にて告知致しました。

また、今回参加児童の内訳は、六十一名のうち、男子は十名で、中学二年生、小学一年生までと幅広い年齢層で、当日欠席者は〇名でした。最

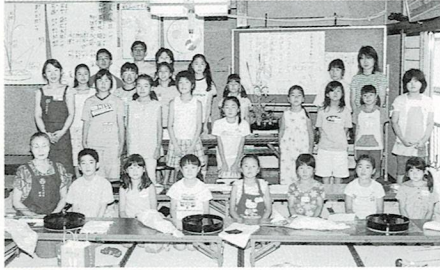
当内容の部をご紹介いたします。



29日に参加した子ども達による集合写真



30日参加の子どもたち。保護者は送迎のみにて、講座中親が付き添っていたのは会期中全60名のうち2名ほどでした。



31日に参加した子ども達。花材は姫蒲、太閤、透百合、撫子、水蓮を用いて夏の水陸いけを致しました。



修了式

質問	ある・はい	ない・いいえ
今までに茶道を体験したことがありますか?	23名	38名
茶道具が家にありますか? (一部でも)	21名	40名
今後も茶道をしてみたいですか?	42名	19名
今までに華道を体験したことがありますか?	16名	45名
華道具が家にありますか? (一部でも)	23名	38名
今後も華道をしてみたいですか?	48名	13名

プロフローラは、フラワーデザイナーのためのドライフラワー、ブリザーブドフラワー、シルクフラワー、花器、デザイン資材のお店です。

PROFLORA

有限会社 **プロフローラ**

〒162-0067 東京都新宿区富久町13-14
 phone:03-3350-8757 (代表) fax:03-3350-6638
<http://www.pro-flora.com>

伝統文化と新しい文明の研究機構

「にっぽん文明研究所」

代表 奈良 泰秀

“いけばなを通じて自らの精神世界を確立する”ことを目指す華道講座
 「にっぽん文明研究所」華道講座
 かたちを超え 自由に 創造的に 個性的に 自分の花をいける

事務局 〒222-0034 横浜市 北区 岸根町 68 1
 TEL 045 (481) 9361 FAX 045 (491) 7461
 E-mail info@nippon-bunmei.jp <http://www.nippon-bunmei.jp>

伝統文化こども教室事業

文化庁予算について

文化芸術振興基本法、基本方針を踏まえた文化芸術の総合的な振興とし、文化庁では、国内外の人々を魅了する文化力の向上として、文化力で「元気な地域」の創生と世界を魅了することによる存在感のある日本を作ることを目的に、日本文化の裾野を広く捉え、その担い手として明日の日本文化を作る子どもたちを育成することに力を注いできております。平成十八年度予算額として一〇〇六億円、その内訳は、文化芸術立国プロジェクトの推進二百十億円、文化財の次世代への継承と国際協力の推進に三百四十五億円、文化芸術振興のための文化拠点の充実に三百八十七億円が計上されています。前年比十億減となっていますが、

これらの中で伝統文化こども教室事業は、十七年度予算十四億八千八百万円でしたが、十八年度予算額は若干増額され、十五億九千三百万円となっており、計画では二千二百五箇所から二千六百箇所の予定で予算が組まれています。しかし実際は、十六年は二千六百三十四件の申請が認可され、十七年は、二千七百二十六件の認可の為、十八年は三千件を超えるものと思われま

す。その内華道は十六年が七百六十九件(約三億六千二百万円)、十七年は六百五十件(二億六千九百万円)となっており、他に複合型の中にも華道が入っていると思われるので、実数はもっと多くなるものと思われま

す。分野別では、十七年度は華道が一番多く、次いで複合型の四百七十七件、茶道の二百二十六件、邦楽の百八十四件、着物着装礼法の百五十二件、和太鼓の百五十一件、民謡民踊の九十三件、お囃子九十二件、神楽六十五件、古武道六十二件、祭り行事六十一件、囲碁六十一件、能楽五十八件、獅子舞五十三件、地芝居・人形芝居五十二件、伝統工芸三十四件、等々になっています。変わったところではガマ口上やお手玉、剣玉などもあります。

また、よく分からないのですが、ミュージカルや副音ハーモニカなども入っており、これも伝統文化なのでしょうか？

この事業も四年目の申請となりますが、いけばなは、毎年継続して採択させない(申請数が多い為だそうです)が、花材費が参加者負担か自己負担本会各支部では一回千円の花代の内五百円を自己負担としていますが、団体の自己負担が大きく、次回からは全額参加者負担とするか検討しています。

また、他の団体では花代三百円でやっている所も有るようで、これで十回から二十回、花材を取れるものなのか大変疑問であります。教材費については今後考えて行きたい問題であります。

また、伝統文化としての助成であるので、花に触れる機会を増すということだけで、内容はフラワーアレンジメントでしかなく、歴史、文化についての教授が全く無い所も見受けられるのも問題ではあると思ひます。(これは各自のカリキュラムの問題ではあります。事前審査が必要となつてくると思われま

す。それと共にこの三年間の結果をいけばな界として、ある程度の数字上の統計等(参加子ども数や終了後の継続等々)出して頂き、今後の方針を考える機を作つてゆくことも重要な問題と思われま

事務局より

平成十八年丙戌を迎えるに当たりていけばなに関わる諸氏皆様の本会へのご支援ご協力に感謝申し上げますと共に、日頃より華道いけばな文化振興発展の御為にご尽力頂いてご精進されていましてことに敬意を表しますと共に、本年も同様のご厚情を願ひあげたく存じます。

本通信も毎号遅れましてご迷惑をおかけ致しておりますが本来は昨春秋発行準備をしておりましたところ、事務局内山の問題で恐縮なのですが、本会の事務局担当の中山理事が春に出産の為に担当を辞任、その後を引き継いで事務局担当となった齊藤理事も秋に転職の為本会事務局にあてる時間が無くなり、現状として山内事務局長が一手に作業を引き受けることとなり大幅な遅れをとつたことにより、本通信の発行が現段階になってしまいました。その為本年はいくつか事業を整理して参りたく思っています。

具体的には昨年は野外展を関東地区でもして欲しいとの要望がありました。二つこなすのは困難な為、本年は近江神宮のみとさせて頂きたく存じます。

また、紙面を利用しての社会発信事業としての各誌との掲載連載の方も花弁園芸新聞の毎月の作品紹介は二年が経つたこともあり、十二月で終了とさせて頂き、「りぶる」の方も同様二年が経つたので9月号で終了、「歴史研究」は毎月連載という形ではなくし、継続はしますが不定期の連載という形としてたく思っています。これは、掲載者を当方でご案内し募集をしてゆくに際し、商業誌の締切をこなす等、事務的な量をこなせない事からきています。出来るだけ自発的に参加頂くことにより社会発信に参加されます機会を各自がお待ち頂きます様にこの場にて重ねてお願いいたたく存じます。また、再開を各種誌面とのタイアップ連載も計画をいたたく思っています。その折は宜しくご参加を願ひます。

各種助成事業の方は少しづつでも増して参りたく思っています。特に伝統文化こども教室は本会の各支部の設立から申請、報告に至るまで全面的に指導致しますので、ご要望のある方はご連絡を下さい。

それと共に自民党本部でのいけばな体験講座も年一回の機会でもありますし、議員の皆様様の理解を得る良い機会でもありますので、継続をお願いして参りたく思っています。(本年度は三月二十九日の開催)合わせて、民主党の議員の先生方も伝統文化理解の一助としていけばなに触れる機会を作らうとの事により内容等は未定ですが、昨年は選挙の為流れてしまったものを今春に開く予定

歴史研究

歴史研究会ご入会のおさそい

◎歴史研究会はいわゆる学術団体ではありません。「歴史を楽しむ広場」作りをしている全国歴史愛好家のための文化機関です。歴史好きのあなたにお役に立ちたく、いろいろとプランを考えています。是非ともご入会いただきたくお誘ひいたします。

★見本として、雑誌『歴史研究』を贈呈します。下記へご連絡ください。

歴史研究会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-14-10 五反田ハイム504

TEL 03 (3779) 3127/FAX 03 (3779) 5063

株式会社 益田屋

花道具・茶道具・工芸専門店 毎週水曜日定休

懐石・海鮮割烹 正芳庵

益田屋3階 水曜日定休 電話03(3362)1176

〒169-8525 東京都新宿区百人町2-20-17

TEL 03(3362)3281代/FAX 03(3367)0948

伝統文化こども教室

財団法人文化活性化国民協会が文化庁からの委嘱を受け実施されています。伝統文化子ども教室事業も平成十七年で三年目を迎えます。十七年度も全国二千二百五十箇所近くが開設され、その内六百箇所がいはなと、多くの地域で実施されています。

本会でも力を入れて、昨年は十三支部、二一〇名の子どもが参加して助成認定され各地で開催され、全ての支部で募集定員を超えて参加者が集まりました。特に小平支部では定員二十名に対し百名近い申し込みがあり、他も大小はありますが同様で、お断りするのが大変であったことが印象的です。

誌面にて、各地の教室写真をご紹介します。また、十八年度も文化庁の予算の中では減額されている文化対策費の内でも、本事業は増額される予定で、一千六百箇所を予定し、約十六億の予定額が計上されています。いはなの分野は参加団体が多い為、二年間に亘って継続出来ないことと、花材費が自己負担であることがネックとなっていますが、子どもたちを通じてご家庭、地域にいはなを知って頂く良い機会と思えます。



いはなworks川崎市支部
代表：山内奈緒子
会場：市立菅小学校
定員：15名 全12回



いはなworks勝沼町支部
代表：小澤貴美枝
会場：勝沼町中央公民館
定員：10名 全15回



いはなworks品川区支部
代表：齊田明子
会場：滝王子児童センター
定員：20名 全10回



いはなworks所沢市支部
代表：唐澤とみ江
会場：狭山ヶ丘コミュニティセンター
定員：20名 全12回



いはなworks瑞穂町支部
代表：桑原キミ子
会場：武蔵野コミュニティセンター
定員：10名 全15回



いはなworks清瀬市支部
代表：山口美佐
会場：清瀬市生涯学習センター
定員：20名 全10回



いはなworks横浜市支部
代表：市川由香
会場：東沢沢小学校コミュニティハウス
定員：20名 全12回



いはなworks練馬区支部
代表：杉本ふみ
会場：練馬区総合教育センター
定員：20名 全10回



いはなworks草津市支部
代表：小早川敏子
会場：草津市交流プラザ
定員：15名 全12回



いはなworks東村山市支部
代表：市橋 良
会場：市立第七中学校
定員：20名 全10回



いはなworks府中市支部
代表：栗田るみ
会場：府中市生涯学習センター
定員：20名 全10回



いはなworks小平市支部
代表：飯尾しづ子
会場：市立中央公民館
定員：20名 全10回



いはなworks東大和市支部
代表：白岩和枝
会場：市立中央公民館
定員：20名 全12回